

飼育レポート①

チンパンジーとの知恵くらべ



飼育展示担当 佐藤 勝典

チンパンジーは知能が高く、ヒト以外のどんな動物よりも、はるかに幅広く問題解決に道具を使います。大森山では2年前から、そんな様子を実際にご覧いただきたいと思い、職員手作りのエサの堀り出し柱やボックスを用意してきました。小さな枝切れを与えると、それを使い中の豆などをかき出し食べるのです。しかしこの様子、一度にたくさんの方々に見てもらえないという難点もあり何か他の方法と考えていました。

そこで、今度は、普通にエサを与えるのではなく、屋外展示場にいるチンパンジーが簡単に届かないようにチンパンジー舎の展望台からひもでバナナやパンを吊り降ろし、彼らがどんな反応や行動をとるかを皆さんに見て頂こうと工夫を凝らしてみました。

その結果、二足歩行する姿、そして、ジャンプ「跳躍」、さらには、あらかじめ運動場に準備しておいた枝木、竹を使い懸命にバナナやパンを取る姿を見ることができるようになりました。

その姿に来園者の歓呼とともに飼育スタッフであることを忘れ、手を大きくたたいている自分がいました。苦労したことは、エサを上手に取らせるため動物が興奮しないようにすることでした。道具を使用してエサを取る姿を、今度はさらに進化した形でお見

せできできるようにこれからも努力したいと思います。

秋田のチンパンジーはこれまで大きな群れにいなかったため、文化の伝授がすくなく、単調な暮らしをしていましたが、これからは生活することの楽しさを私たちがもっともと提供し、より進化したチンパンジーをご覧頂けるよう、あるいは秋田から何かを発信できるチンパンジーになってもらいたいものです。

飼育レポート②

マーコールの展望レストラン



飼育展示担当（獣医師） 高橋 広志 (00)

マーコールは家畜ヤギの原種の一つとされる最も大型の野生ヤギで、山岳地域に生息し、切り立った岩場を住みかとする非常に跳躍力のある動物です。

放飼場内には、高い所大好きなマーコールのために、小屋の屋根に上がる足場をつけ、屋根上には”展望レストラン”を作りました。「うまく登ってくれるかな。」と、飼育員の心配をよそに、来園数日後には、軽々と登っていました。地上からの高さは、3.6 m。眼下には塩潟湾が広がり、その先にはフライングケージも一望できます。そんな動物園でも最高のロケーションの一つをマーコール達は、独り占めにしています。

マーコールは、放飼場フェンス近くに人が来ると、「何か貰えるのかな？」と首を傾げながら寄ってきます。フェンスの網目越しに青草を入れると唇でむしり取っていきます。現在、雄2頭、雌1頭のマーコールがいますが、餌をもらうときの3頭の位置関係、人への近づき方を見ていると、何となくこの3頭の性格が判ってくるような気がします。来園の際は、観察してみてくださいね。

今では、逃げられないように苦労して設置した高さ5 mもの柵も、人なつっこく大森山が気に入った様子のマーコールにとって無用の長物と化しています。

飼育動物数

	種 類	点 数
哺乳類	64	317
鳥 類	56	254
爬虫類	11	33
魚 類	4	31
合 計	135	635

(平成17年4月末現在)

編 集 後 記

昨年の4月に市の広報課から動物園に異動になってから1年が過ぎました。その間、動物たちの誕生や死に直面し、命の尊さや大切さ、強さやはかなさを今まで以上に感じるようになりました。動物園では毎日様々な出来事がおきています。これからもこの出来事を情報として少しでもコミュニケーションでお知らせできればと思っています。

木村 俊夫